

(第三種郵便物認可) THE BUKKYO TIMES

ニュース

曹洞宗

群馬・仁叟寺で
峨山禅師大遠忌

群馬県高崎市の曹洞宗仁叟寺(渡辺啓司住職)は6月15日に先々代の渡辺石橋住職(1884~1966)の50回忌法要と、大本山總持寺ニ祖峨山韶碩禅師650回大遠忌法要を併修で営んだ。

石橋住職は県宗務所長や宗議会議員を務め、吉井町仏教会の創設者でもあり、県保護司会副会長など社会的にも活躍した。葬儀は本寺である雙林寺の石附賢道住職が秉炬師となり、この度の50回忌はその弟子の總持寺・石附周行副貫首が務めた。

石附副貫首は生前の石橋住職の遺徳を懐かしみ、導師を務められたことに感謝した。

その後峨山禅師の大遠忌法要では渡辺住職が導師となり、峨山禅師が始められたという、大悲心陀羅尼の「真読」が行われた。(写真=渡辺住職)

渡辺住職(群馬県宗務所長)は石橋住職のことを「住職在籍43年は歴代で一番長かった。戦後、農地解放によりお寺は苦難に立たされましたが、自身のことをなげうっても山内の整備に活躍した姿が印象に残っています」と回想する。また、大遠忌法要については「地方寺院で大遠忌法要を行うことはきわめて珍しいのではないのでしょうか」と語り、出仕した僧侶や参列者にも感謝・今後も全国の地方寺院で同じように大遠忌法要を営んでほしいと語った。

智山派

私見防火の心がけ
項目作り檀家と共有

岩手県奥州市・興性寺の寺報「桔梗通信」第159号に「防火の心がけ・お寺で火災が発生した場合の心がけ」が掲載されている。司東隆光副住職は、自坊で行った「避難・消火訓練」を報告。「不特定多数の方が集まる」一方、「火を使う機会が多いにも関わらず、木造建築」であるお寺の防災対策「私見」を述べている。

主要項目として、「大きな声や火災報知器で周知」「人命が優先、まずは避難」「携帯電話を

教界情報

曹洞宗群馬・仁叟寺で峨山禅師大遠忌

群馬県高崎市の曹洞宗仁叟寺(渡辺啓司住職)は6月15日に先々代の渡辺石橋住職(1884~1966)の50回忌法要と、大本山總持寺ニ祖峨山韶碩禅師650回大遠忌法要を併修で営んだ。

石橋住職は県宗務所長や宗議会議員を務め、吉井町仏教会の創設者でもあり、県保護司会副会長など社会的にも活躍した。葬儀は本寺である雙林寺の石附賢道住職が秉炬師となり、この度の50回忌はその弟子の總持寺・石附周行副貫主は務めた。石附副貫主は生前の石橋住職の遺徳を懐かしみ、導師を務められたことに感謝した。

その後峨山禅師の大遠忌法要では渡辺住職が導師となり、峨山禅師が始められたという、大悲心陀羅尼の「真読」が行われた。

渡辺住職(群馬県宗務所長)は石橋住職のことを「住職在籍43年は歴代で一番長かった。戦後、農地解放によりお寺は苦難に立たされましたが、自身のことをなげうっても山内の整備に活躍した姿が印象に残っています」と回想する。また、大遠忌法要については「地方寺院で大遠忌法要を行うことはきわめて珍しいのではないのでしょうか」と語り、出仕した僧侶や参列者にも感謝・今後も全国の地方寺院で同じように大遠忌法要を営んでほしいと語った。